

## 情報処理学会平成元年度功績賞



大野 豊君  
(大正 13 年 8 月 24 日生)

大野 豊君は 日本初のオンライン予約システムであるマルスシステムを完成され、日本の情報処理技術、オンライン技術の発達に大いに貢献されました。

また第 3 回日米コンピュータ、第 6 回ソフトウェア工学、第 12 回 VLDB、第 1 回 DOOD 各国際会議の組織委員長等、また  $\Sigma$  プロジェクトにおいては開発委員長の要職を務められるなど、国内外にわたりシステム工学、ソフトウェア工学の先駆けとして常に学界をリードしてこられました。

一方教育者としても、京都大学教授として多くの後継者を育てられたうえ、(財)京都高度技術研究所の初代所長として多くの学究の徒を育成されております。

さらに本学会の理事、副会長、会長を歴任され、現在も創立 30 周年記念事業実行委員長として学会の発展に多大の功績を残されるなど、情報処理の学問と教育および実社会に尽くされた功績はまことに顕著なものがあります。



坂井 利之君  
(大正 13 年 10 月 19 日生)

坂井利之君は 情報工学および通信工学の広範な分野で多くの世界的研究業績を挙げられ、情報処理技術の発展に指導的な役割を果たされました。

特に人工知能の先駆けとなる画像・音声・言語などの認識・理解の研究業績は国際的にも高く評価されております。また大学間ネットワークの構築による情報処理環境の高度化と情報基礎学の提唱などに多大の業績を挙げられました。教育者としては、京都大学教授ならびに文部省科学官として、後進の育成と情報工学、情報処理の教育の振興に尽力されました。

さらに本学会の関西支部長、理事、副会長、会長を歴任し、IFIP Congress '80 の実行副委員長、国際パターン認識連盟 (IAPR) 会長、第 4 回パターン認識国際会議実行委員長などを通じて、国内外にわたり学会の発展に多大の貢献をされ、情報処理の学問と教育の発展に尽くされた功績はまことに顕著なものがあります。